

L07b 小惑星・衛星名の発音調査

佐藤 勲 (中野星の会)

外国人に対する発音調査などにより、小惑星や衛星の名前の発音調査を行った。これまでに番号登録された約 35 万個の小惑星のうち、命名されたものは約 17000 個で、内訳は、英語 33 %、日本語 11 %、ドイツ語 10 %、ロシア語 7 %、フランス語 6 %、イタリア語とラテン語が 5 % など。これらの半数以上について、外国人に対する発音調査が終わっている。

小惑星や衛星の名前の呼び方で問題となるものとしては、次のようなケースがある。

1、小惑星や衛星で、同じ名前や同じ由来の名前が付けられているものがある。たとえば、小惑星 (85)Io、(52)Europa は、木星の衛星と同じ名前である。小惑星 (4769)Castalia は、小惑星 (646)Kastalia と同じ由来である。小惑星 (87)Sylvia の第 1 衛星 Romulus は、小惑星 (10386) と同じ名前である。

2、ラテン語の名前の発音は、各言語で伝統的に異なっている。たとえば、"Ceres" は、英語では「シリーズ」、フランス語とスペイン語では「セレス」、ドイツ語とチェコ語では「ツェレス」、イタリア語では「チェレス」、中国語では「穀神星」、そして日本語では「ケレス」である。このため、国際会議などで、"Titan" = 「タイタン」、"Chiron" = 「カイロン」、"Ida" = 「アイダ」、Enceladus = 「エンセラダス」などと、英語式の発音をされると、それが正しい発音なのだと思うのは誤りで、日本語では「ティタン」、「キロン」、「イダ」、「エンケラドゥス」と呼ぶのが伝統的に正当な呼び方である。

詳しい調査結果については、JANNET のホームページを参照されたい。

<http://homepage2.nifty.com/mp6338/JANNET.html>